

2025年2月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年9月30日

上場会社名 株式会社ピクルスホールディングス 上場取引所 東
コード番号 2935 URL https://www.pickles-hd.co.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 影山 直司
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経理財務部長 (氏名) 三品 徹 TEL 04-2931-0777
半期報告書提出予定日 2024年10月15日 配当支払開始予定日 2024年11月13日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年2月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年3月1日～2024年8月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期中間期	21,694	△6.1	1,117	△12.7	1,171	△13.6	798	△12.8
2024年2月期中間期	23,111	—	1,280	—	1,355	—	915	—

（注）包括利益 2025年2月期中間期 806百万円（△12.7%） 2024年2月期中間期 923百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期中間期	64.19	62.32
2024年2月期中間期	73.27	71.69

（注）当社は2022年9月1日に単独株式移転により設立されたため、2024年2月期中間期における対前年中間期増減率は記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
2025年2月期中間期	31,570	18,802	18,802	18,802	58.3
2024年2月期	27,713	18,254	18,254	18,254	64.6

（参考）自己資本 2025年2月期中間期 18,398百万円 2024年2月期 17,890百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	0.00	—	24.00	24.00
2025年2月期	—	12.00	—	—	—
2025年2月期（予想）	—	—	—	12.00	24.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年2月期の連結業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	43,500	1.1	1,700	1.9	1,780	0.5	1,200	2.1	96.49

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 一社 (社名) 一、除外 1社 (社名) 株式会社尾花沢食品

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記 (3) 中間連結財務諸表に関する注記事項 (当中間期における連結範囲の重要な変更)」をご覧ください。

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記 (3) 中間連結財務諸表に関する注記事項 (中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (中間期)

2025年2月期中間期	12,858,430株	2024年2月期	12,858,430株
2025年2月期中間期	421,400株	2024年2月期	421,400株
2025年2月期中間期	12,437,030株	2024年2月期中間期	12,493,127株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 中間連結貸借対照表	3
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	
中間連結会計期間	5
中間連結包括利益計算書	
中間連結会計期間	6
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当中間期における連結範囲の重要な変更)	7
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善が見られたことから緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、原材料・エネルギー価格の高騰の長期化に加え、欧米の高い金利水準の継続に伴う金融資本市場の変動による影響などを受け、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、インバウンド需要の増加により外食需要は堅調に推移しているものの、内食需要は、食料品価格やエネルギー価格など、さまざまなものが値上げされたことにより消費者の節約志向が強まり、消費に足踏みがみられます。この影響を受け、漬物などのご飯まわりの関連製品についても、引き続き厳しい事業環境となっております。

このような状況のなか、当社グループは、北海道から九州まで全国に展開している製造・販売のネットワークを活用し、新規得意先や新しい販路の開拓及び既存得意先の拡販に取り組みました。

販売面では、株式会社ピクルスコーポレーションにおいて、デジタルギフトやご飯がススムブランドの商品詰め合わせが当選するSNSキャンペーンを実施し、「ご飯がススムキムチ」の知名度及びブランドロイヤリティの向上に努めました。また、株式会社フードレーベルにおいて、ドレッシングやふりかけなどの牛角監修商品などが当選するSNSキャンペーンを実施し、「牛角韓国直送キムチ」や「牛角やみつきになる!丸ごと塩オクラ」の販売促進に努めました。

製品開発面では、株式会社ピクルスコーポレーションにおいて、開封してすぐ食べられる、サラダ感覚の浅漬の「液切りいらず おしんこ白菜」や株式会社桃屋との初めてのコラボレーション品となる「桃屋のきざみにんにく使用 おつまみキャベツ」などの新商品を発売しました。その他にも、株式会社ピクルスコーポレーション札幌において、北海道長沼町産白菜を使用し、酪農学園大学の学生がレシピ・商品名を考案した「酪農学園大学監修 沼の浅漬」を地域・期間限定で発売しました。

新規事業では、外食事業及び小売事業を行う「OH!!!~発酵、健康、食の魔法!!!~」(所在地:埼玉県飯能市)において、2024年3月に自家製天然酵母を使用したベーカリーショップ「飯能ベーカリー POCO-POCO」をオープンしました。看板商品の「ヨーグルト種のポコポコクリームパン」をはじめ、北海道の希少小麦を使用した「キタノカオリ食パン」や4種の小麦を独自にブレンドした「クロワッサン」など、店内で作り上げ、焼きたてを種類豊富に取り揃えております。

売上高は、さまざまなものの価格上昇による消費者の節約志向の影響や、コンビニエンスストア向けの売上が減少したことなどにより減収となりました。

利益については、春先の天候不順や夏場の高温などの天候要因により原料となる白菜や胡瓜などの野菜の価格が高騰したこと、売上高が減少したことや物流費や人件費の上昇などの影響により減益となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は21,694百万円(前年中間期比6.1%減)、営業利益は1,117百万円(同12.7%減)、経常利益は1,171百万円(同13.6%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は798百万円(同12.8%減)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて3,856百万円増加し、31,570百万円となりました。これは主に現金及び預金が567百万円、受取手形及び売掛金が1,618百万円、株式会社ピクルスコーポレーションの茨城工場建設工事等により建設仮勘定が1,627百万円それぞれ増加したことによるものであります。

負債については、前連結会計年度末に比べて3,308百万円増加し、12,767百万円となりました。これは主に買掛金が1,264百万円、流動負債のその他が1,801百万円それぞれ増加したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べて548百万円増加し、18,802百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する中間純利益等により利益剰余金が499百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月期の業績予想につきましては、2024年4月12日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,754	8,322
受取手形及び売掛金	4,119	5,738
商品及び製品	380	447
仕掛品	66	82
原材料及び貯蔵品	216	274
その他	85	53
流動資産合計	12,622	14,917
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,691	4,796
機械装置及び運搬具(純額)	1,564	1,439
土地	6,527	6,523
リース資産(純額)	32	45
建設仮勘定	478	2,105
その他(純額)	143	126
有形固定資産合計	13,436	15,037
無形固定資産		
のれん	206	156
その他	120	100
無形固定資産合計	326	256
投資その他の資産		
投資有価証券	677	714
繰延税金資産	571	565
その他	78	78
投資その他の資産合計	1,327	1,358
固定資産合計	15,091	16,652
資産合計	27,713	31,570

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,892	4,157
短期借入金	1,100	1,000
1年内返済予定の長期借入金	400	1,543
リース債務	5	5
未払法人税等	449	362
賞与引当金	163	153
役員賞与引当金	19	—
その他	1,636	3,438
流動負債合計	6,668	10,661
固定負債		
長期借入金	1,628	914
リース債務	6	22
繰延税金負債	17	18
退職給付に係る負債	818	836
その他	321	314
固定負債合計	2,791	2,105
負債合計	9,459	12,767
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	2,803	2,803
利益剰余金	15,315	15,815
自己株式	△499	△499
株主資本合計	17,719	18,219
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	172	181
退職給付に係る調整累計額	△2	△1
その他の包括利益累計額合計	170	179
新株予約権	352	392
非支配株主持分	11	11
純資産合計	18,254	18,802
負債純資産合計	27,713	31,570

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)
(中間連結会計期間)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
売上高	23,111	21,694
売上原価	18,316	17,074
売上総利益	4,795	4,620
販売費及び一般管理費	3,515	3,502
営業利益	1,280	1,117
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	4	4
負ののれん償却額	18	—
持分法による投資利益	15	20
受取賃貸料	16	16
事業分量配当金	8	7
その他	23	18
営業外収益合計	87	68
営業外費用		
支払利息	2	4
賃貸費用	8	9
その他	0	0
営業外費用合計	12	14
経常利益	1,355	1,171
特別利益		
固定資産売却益	6	—
資産除去債務戻入益	—	4
補助金収入	0	0
受取補償金	10	—
特別利益合計	17	4
特別損失		
固定資産処分損	0	45
特別損失合計	0	45
税金等調整前中間純利益	1,372	1,130
法人税等	456	332
中間純利益	915	797
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失(△)	0	△0
親会社株主に帰属する中間純利益	915	798

(中間連結包括利益計算書)

(中間連結会計期間)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
中間純利益	915	797
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8	8
退職給付に係る調整額	—	0
その他の包括利益合計	8	8
中間包括利益	923	806
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	923	806
非支配株主に係る中間包括利益	0	△0

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当中間期における連結範囲の重要な変更)

当中間連結会計期間において、連結子会社でありました株式会社尾花沢食品は、連結子会社の株式会社ピクルスコーポレーションにより吸収合併され消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。